

ほっと安心して安全に暮らせるまち

【防災】【安心・安全】【快適な環境】

自助、共助、公助の理念のもと、自分で自分や家族を守り、また、住民や事業者が助け合って地域を守るとともに、行政が連携することにより、災害に強いまちになります。

また、犯罪や交通事故、火災がなく、住民にも来訪者にとっても安心して安全なまちになるとともに、区民や事業者、行政等が協働してごみを削減するなどにより、環境への負荷が最小限に抑えられ、かつ犬や猫とも共生できる快適なまちになります。



戦略

3

災害に強いまちづくりを進めます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



現状

平成23年3月の東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。その後、平成28年4月の熊本地震、平成30年6月の大阪府北部の地震、9月の北海道胆振東部地震、令和6年1月には能登半島地震など大規模地震が発生し、全国各地で大きな被害が発生しました。

南海トラフを震源とする大規模な地震は、発生確率が今後30年以内で70～80%（40年以内で90%程度）と切迫度が増しており、瑞穂区では、最大震度6強、最大の死者数が約200人（全市：約6,700人）、最大の建物全壊・焼失棟数が約4,000棟（全市：約66,000棟）という甚大な被害が想定されています。さらに、瑞穂区の南西部の一部地域では津波による浸水が想定されています。

また、近年の気候変動の影響により、自然災害が激甚化・頻発化し、毎年各地で大きな被害が発生しています。

こうした中、学区での防災訓練の実施や個々の町内会や自治会を単位とした自主防災活動の実施を促進しています。

課 題

- ◆一人ひとりが、家具等の転倒防止対策や耐震化対策を意識し、被害の軽減に取り組む必要がある。
- ◆大規模災害時には、隣近所で助け合って、安否確認、避難行動、救出活動等を行うことが重要であり、地域の実情に応じて「助け合いの仕組みづくり」や自主防災組織の結成・活動の支援をするなど、地域防災力を向上させる必要がある。
- ◆関係行政機関などが連携・協力し、災害時に迅速かつ円滑な対応が行えるよう備える必要がある。
- ◆一人ひとりが、災害リスクや指定緊急避難場所と指定避難所の違い、災害の種別に応じた指定緊急避難場所及び避難方法を理解しておく必要がある。

施策6 自助（家庭）、共助（地域）、公助の力を高めた災害に強いまちづくりを進めます

実現させるための方策

■自助力の向上

家具等の転倒防止対策、住宅の耐震化及び備蓄品の用意の重要性について啓発するとともに、災害時の適切な避難行動等を周知します。また、家具転倒防止ボランティアの養成及び派遣などの体制づくりを進めます。

■共助力の向上

地区防災カルテを活用した話し合いを継続的に行い、カルテの内容を深めるとともに、必要な防災活動や「助け合いの仕組みづくり」に取り組むことにより地域防災力の向上を図ります。また、自主防災組織の取り組み状況や地域の実情などを考慮したうえで、必要な活動を提案するなど、より実効性のある自主防災組織となるよう支援します。

■公助力の向上

関係公所（署）などと連携して実践的な図上訓練や情報伝達訓練等を実施し、職員の防災意識を高めます。



地域防災リーダー研修

施策7 集中豪雨に備え、河川堤防の改修を進めます

実現させるための方策

■山崎川の堤防改修

集中豪雨に備え、山崎川の堤防の改修を順次進めます。

山崎川堤防の改修



成果指標

指 標	現状値	目標値
災害に強いまちづくりができていると思う区民の割合	58.1%	65.0%
家庭内において災害に対する備えをしている区民の割合	69.8%	100%



現 状

瑞穂区は、犯罪や交通事故、火災が少なく、比較的安全な区と言われています。

令和5年の刑法犯認知件数は市内最少でしたが、特殊詐欺被害件数は増加傾向にあります。

人身事故件数は概ね減少傾向で、令和5年の人身事故件数は市内で2番目に少ない区でした。しかし、死亡事故が発生し、2名の尊い命が失われました。

また、適切に管理されていない空家等やいわゆるごみ屋敷は、防犯・防火上の危険や景観を損なうなど、周辺の生活環境に悪影響を及ぼしています。

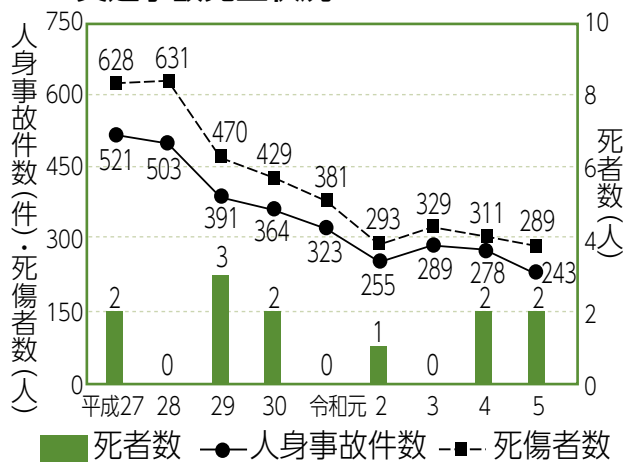
火災発生件数は、令和5年は市内で3番目に少ない区でした。

地域では、日頃から防犯活動や交通安全活動、防火活動が活発に行われています。

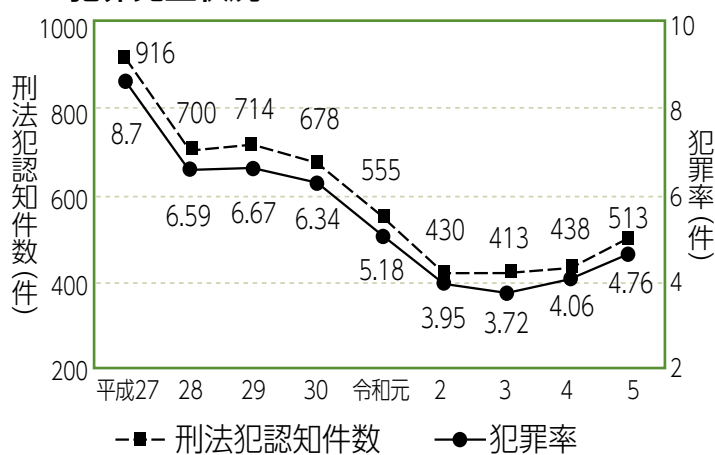
新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症の集団感染の経験から、区民の感染症予防に関する意識が高まっています。

過去5年間（令和元年から令和5年）に市内で発生した食中毒の原因としてはカンピロバクターが最多であり、瑞穂区においても、令和2年に加熱不十分な鶏肉を原因とするカンピロバクター食中毒が発生しました。

■交通事故発生状況



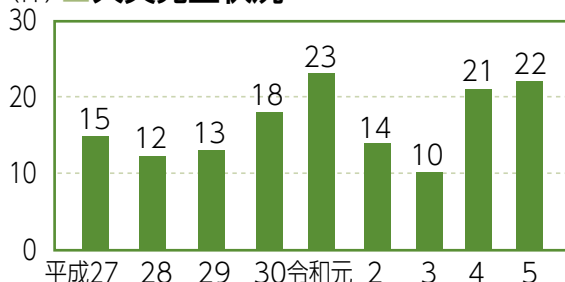
■犯罪発生状況



※刑法犯認知件数：発生地別に集計したもの
(愛知県警察本部生活安全総務課で集計)

※犯罪率：人口1,000人あたりの刑法犯認知件数

■火災発生状況



課 題

- ◆交通事故発生の原因や実態に即した効果的な対策を行い、交通ルールの遵守やマナーの向上など、安全意識の高揚を図り、交通死亡事故ゼロをめざす必要がある。
- ◆一人ひとりが防犯意識を持ち、地域における防犯力を高めていく必要がある。
- ◆増加傾向にある罪種など、犯罪情勢に応じた対策が必要である。
- ◆家屋の破損や立木等の繁茂など、周辺地域に危険や悪影響を及ぼす空家等への対応については、関係機関が連携・協力して適切な管理がなされるように取り組む必要がある。
- ◆住居の堆積物による不良な状態は、周辺道路へのはみ出しや不法投棄の誘発など、周囲の生活環境に様々な悪影響を及ぼすため、その解消を図る必要がある。
- ◆火災の早期発見に有効な住宅用火災警報器の設置や、定期的な点検・取替を全世帯に促し、火災による被害の軽減を図る必要がある。
- ◆健康で安全な暮らしを確保するため、感染症予防に関する知識の習得に社会全体で取り組む必要がある。
- ◆食中毒や飲食による体調不良の発生を減少させるため、食の安全・安心確保の推進に取り組む必要がある。

施策8 犯罪や交通事故のない、安心・安全な地域づくりにつとめます

実現させるための方策

■交通事故にあわないための啓発 **新規・重点**

地域や警察署、土木事務所と区内交通事故の状況を分析し、必要な対応を進めます。また、事故を起こさないように、事故にあわないように、交通安全意識の高揚を図ります。

■犯罪の抑止

警察署と連携を図りながら犯罪の発生状況を地域に周知するとともに、状況に応じた効果的なパトロールや啓発活動を行います。

■空家等の適切な管理促進

適切に管理されていない空家等について、関係機関と連携して所有者等への指導や適切な管理を促進するために、情報の提供など必要な援助を行います。

■住居の堆積物による不良な状態の解消

不良な状態の解消に向けて、関係機関が情報共有し連携しながら、必要な支援や指導を行うことにより、早期の解消につとめます。



交通安全教室

施策9 安心して安全に利用できる道路や公園等を提供します

実現させるための方策

交通安全対策の実施

交通事故を無くすため、対策の必要がある箇所において、道路の交通安全施設を整備し、適正に維持管理します。

歩道のバリアフリー対策の推進

障害者や高齢者も安心して安全にまちに出られるように、歩道のバリアフリー対策を進めます。

また、第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会開催に向けた瑞穂公園陸上競技場地区バリアフリー基本構想に基づいた対策を進めます。

公園や街路樹等の維持管理

暮らしの安全や快適を守るため、公園や街路樹、河川を適正に維持管理します。



交通安全施設の設置

施策10 家庭と地域における防火対策を進めます

実現させるための方策

防火対策の普及促進

住宅用火災警報器の設置及び取替など防火対策の啓発を行います。

住宅用火災警報器の
設置啓発



施策11 健康で安心・安全な暮らしのため、感染症等の対策を進めます

実現させるための方策

感染症の予防知識の普及啓発 新規・重点

区民の健康が損なわれないよう、感染症対策の普及啓発を行います。

食の安全・安心の確保

消費者・食品事業者・行政等の関係者間で、食の安全に関するリスクコミュニケーション(情報共有及び意見交換)を実施します。また、消費者及び食品事業者に対して正確かつ適切な情報提供を行います。



食の安全に関する
リスクコミュニケーション

成果指標

指 標	現状値	目標値
安心して暮らせると思う区民の割合	88.9%	95.0%
年間交通事故死者数	2人	0人
犯罪率	16区中1番目に 少ない(4.76件)	16区中1番目に 少ない



現 状

地域と協働した清掃活動や空地をきれいにする運動を実施しています。

家庭から排出される資源のうち、プラスチック製容器包装、紙製容器包装は分別率が低下しているほか、雑がみ、衣類・布類の分別率が向上せず、資源化が進んでいない現状があります。

また、犬や猫によるフンや尿の被害についての相談などが多く寄せられており、ペットの災害対策については周知が十分でない現状があります。

課 題

- ◆区民、事業者と行政などが協働し、区民及び来訪者にとってきれいで住みよいまちとするため、快適なまちづくりを進める必要がある。
- ◆正しい分別方法を周知し、より一層の資源化の推進を図り、無駄なく利活用することが重要である。
- ◆犬や猫の適切な飼い方について、飼主だけでなく地域全体に周知する必要がある。
- ◆ペットの災害対策についての啓発を進めていく必要がある。

施策12 きれいで住みよいまちづくりを進めます

環境意識向上のための清掃活動等の実施

区民・事業者・行政が一体となって、清掃活動や啓発活動を実施し、環境意識の向上を図ります。



クリーンキャンペーン

施策13 持続可能な循環型都市をめざします

実現させるための方策

■家庭系ごみの分別推進

分別ルールが定着しにくい若年層・外国人・短期賃貸マンション入居者・市外からの転入者等に対し、ターゲットの属性に応じた多様な手段による広報や、分別推進員、職員による地域巡回連携等による周知・排出指導を行います。また、集団資源回収を行っている団体に対して、年度ごとの更新手続きなどの機会に、古紙、衣類・布類の資源化の啓発や取り組みについて説明し、協力の依頼を行います。さらに、持続可能な社会の担い手を育てるため、小学校等で児童・生徒に対し講座を開催し、各家庭での分別・リサイクルやプラスチックごみによる海洋汚染と発生抑制の取り組みについて考える機会を提供します。

■事業系ごみの分別推進

大規模オフィスビル等に対する立入指導の機会に、啓発チラシを用いて古紙・生ごみ・プラスチックの発生抑制や資源化啓発を行います。

環境事業所による
小学校出前講座



施策14 人と犬猫が共生できるまちづくりを進めます

実現させるための方策

■犬や猫の適切な飼い方の啓発

保健環境委員と協働して行う愛犬クイズラリー等のイベントを通じて、飼い方のマナーアップの啓発を行います。また、ペットの災害対策について意識の向上を図ります。

■猫のフン害等に関する取り組み

飼主のいない猫によるフン害等に関して、効果的な対策を提案し、快適な環境をめざします。

愛犬クイズラリー山崎川



成果指標

指 標	現状値	目標値
ごみのポイ捨てが少ないと思う区民の割合	75.9%	85.0%
以前に比べ犬のフンを放置する人を見かけなくなった区民の割合	67.6%	75.0%